

北陸地方銀行貸出分布状況

(十五年十二月末 單位千圓)

十二 高岡 中越 富山 能合 同加 州能 和福 井大 和留 計

富山縣 三四四二 二九七〇 一五四九 六一九

八五七五

石川縣

七五五六 一六〇四 一 五七七四 二九二 二七七三 二一 五六五 九五 四一 三四七 五〇 八九〇 〇〇

二九六六三

五八五八二

福井縣

一七、三四七 七九五二 七、六六六

三四、三六五

三六、三六一

三〇、六九九 五、六三三 七〇、六三六

昭和 年 月 日

備考

十二銀行三、水橋銀行、高田銀行三、氷見銀行、

加能合同銀行三、鶴来、金石、西銀行、能和

銀行三、餘善銀行、大和田銀行三、三方銀

行三、合算ス

金石、餘善、三方、三行、十五年六月末分計數ヲ採用。

從テ其地盤ハ相錯綜シ三縣下ニ於

ケル各銀行店鋪所在地一六〇ヶ所中

六六ヶ所ハ店鋪重複シ殊ニ金澤 22

市ノ如キ各行何レモ店鋪ヲ有シテ

其ノ數四〇ニモ上レル程ニシテ銀行

間ノ競争烈ハレク 預金貸出共得

意先ノ半奪 相當 深刻ニテ 之カ爲

メ 一時ハ 商人筋ノ 思惑買ヲ 助長 23

セルコトスラアリ。

状態如斯ナルヲ以テ 三縣下銀行ヲ

打ッテ一九トナスハ、理想トスル處ニシテ

各行ノ内容ニ見シモ加洲・富山ハ

劣レルガ其他ノ諸行ハ何レモ相當

類ノ積立金ヲ持寄ルベキ餘力アリ。

其ノ收益狀況ハ概シテ石川・福井二縣

昭和 年 月 日

日本銀行

銀行良々富山縣、銀行者レカ

總テ先少普通ト見ルベシ。

昭和 年 月 日

日本銀行

十五年上期

十五年下期

经常收益 收益率

经常收益 收益率

十二

八五七

一三・〇

八三三

一二・五

高岡

六二六

一三・一

六二九

一三・二

中越

二四一

一一・三

一八六

八・七

富山

七九

六・六

一四九

一三・五

加能合同

二五四

一九・三

二四三

一八・四

加州

二五四

三七・〇

一六八

二四・四

能和

一三四

一六・八

一五・〇

一九・二

福井

五一・〇

二六・九

五五・二

二九・〇

大和田

二五六

一九・九

二二六

一七・六

昭和 年 月 日

行名
 貸主申
 欠損見込
 勘不知
 中、新債項
 欠損見込
 計
 積立金
 十三年末
 定額
 繰上済済金

十二	五五	〇	五五	七二・七	一八五六	一三一五・〇
高岡	六	〇	六	三七八二	七三六	九五三三
中越	〇	〇	〇	二二六九	三八	四二五・〇
富山	一七二	一九五	三六七	二七三	五	二三七六
加能合同	四八	〇	四八	五六・〇	一七・〇	二六三七
加州	六六一	五二	七一三	六二・〇	三二三	一三七五
能和				六一三	九三	一五九四
福井	七五一	〇	七五一	二二九三	六三三	三七九三
大和田	〇	〇	〇	二七一五	八八八	二五六八

備考
 欠損見込ハ實地調査時、見込額ヨリ其後ノ銷却額ヲ除算セリ
 (単位千円)

昭和 年 月 日

日本銀行

又合同成立、上ハ本店ハ金澤トナル

ヘキカ 當地方資金移動ノ中心ニ在

記都市別銀行貸出残高ニ於テモ 見ルカ

如ク金澤・福井ノ両市ニシテ 本店ヨリ

遠隔トナルヘキ 敦賀方面ニ貸出四百七十

昭和 年 月 日

日本銀行

萬圓程ニ過
キザルヲ以テ
問題トナラザル

入シ。

昭和年月日

北陸四市組合銀行職業別貸出残高

(十五年十二月末)
(單位千円)

業別	計	金澤市	福井市	富山市	高岡市
機業関係	五六九九〇	一七六八九	三五五三一	一五四七	二二二三
米穀肥料	一九〇四	三九五	三九	五九七	八七三
銅器商	一二九四	四二			一二五二
鉄工業	九七一九	五一四一	六六九	三六三六	二七三
醸造業	一四一三	二八七	三六〇	五四三	二二三
膏華製造業	二四六九	一三四	二八	二一九二	一二五
電気瓦斯業	五一四六	九五		四四九一	五六〇
交通運輸業	一七五八	一三四八	二三八	二一一	六一
化学工業	二四六三	三三八	一六二七	四八五	一三

昭和 年 月 日

日本銀行

証券買賣業	三、四一七	一、四〇五	六、五四	一、三一九	一、三九九
金融業	一、三三〇	六、一六	二、一五	三、三一	一、七八
地方自治團體	五、八四二	九、四六	五	四、八九一	
農業	二、七五七	七、四四	四、三〇	一、〇三五	五、四八
其他	六、〇、四七六	二、三、六三四	一、三、九一七	一、四、三、四二	八、五、八三
計	一、五、七、〇、二、三	五、二、七、三、三	五、五、七、三、一	三、五、五、三、〇	一、五、〇、四、九

昭和 年 月 日

右ノ如ク三條下ノ銀行合同ハ理論的ニハ

十分考慮シ得ベキ處ニシテ問題ハ今

直チニ九行同時ノ合同ヲナスベキヤ

漸ク追フテ進ムベキヤニ存スベシ。

九行同時ノ合同ニ就テハ左ノ如キ難点

昭和 年 月 日

ヲ考慮スルノ要アリ。

一、店舗多キニ過ギテ之ヲ統制困難ナル

コト

九行ノ店舗ハ現在

昭和 年 月 日

本店 九 (由三程下所在 九)

支店 二六七 (二四八)

出張所 一五七 (一四七)

計 四三三 (四〇四)

ノ多キニ上リ 重複セルモノ、内

本支店 一二四

出張所 三二

計 一五六

ノ整理 考へラル、モ 之ヲ 急速ニ 行フトキハ

昭和 年 月 日

種々摩擦ヲ生ズル懼レアリ。整理後ト

雖モ残ル店舗ハ二七七(本店一支店

一五一出張所一五五)ニシテ多キコト全國

ニ其比ヲ見ズ蓋シ之が統制ハ容易ナ

ラガルベシ。

尚經營方針アマリニ隔絶せんモノヲ合

併せんモノトシテ 今後ノ運行ニモ支障

ヲ伴フベシ 例ハ大和田銀行ノ如ク

資金ハ殆ント証券ニ投シテ貸出ハ預金

ノ二割程度ニ留メザルモノト 中央銀行

昭和 年 月 日

ノ如ク預金ノ七割余ヲ貸出ニ運用

セルモノトニテハ行首ノ訓練其他ニ相当ノ

相違アルベク渾然之ヲ一体トナストキハ

一時運行上ニ種々ノ支障生スベキハ

想像セラル、處ナリ。

一、支店長等ニ相當人物ヲ要スベキガ

其補充困難ナルコト

預金六億餘ノ大銀行トナルコト、ヲ相當

ノ人材ヲ要スヘシ、幹部級、中央方面

ヨリ人ヲ得トスルモ支店長級ノ人材補充

昭和 年 月 日

ハ困難ナルベシ。

一地理的關係ヨリ見ルモ 富山縣ハ降

雪ノ爲メ 時々 人至澤方面ト交通途

絶スルコトアリ、 其ノ爲メ 既ニ 久シク 本

行支店設置スル要望シツ、アリ、 實際

日本銀行

問題トシテハ如斯コトモ考慮ノ要アルベキ

コト

一 富山縣人ト他ノ兩縣人トハ氣質ニ

於テ著ルニウ異ナル矣アルコト

次ニ三縣一行ニ達スル迄ノ道程トシテ

昭和 年 月 日

合併漸進ノ案ニ付考慮スルニ

富山縣下ノ銀行ハ何モ石川福井ノ兩

縣ニ進出、十二中越ノ如キ遠ク北海

道方面ニマテ觸手ヲ延バシテ相當活躍

ニ其經營方針何モ積極的ニシテ他、

昭和 年 月 日

日本銀行

二縣銀行ト紐ヲ異ニセルヲ以テ之ヲ併セテ

一行ニ統合、

石川縣下ノ銀行ハ三行共其地盤盤

内ニ限ラレ能クヲ除キ何レモ機業人金融

ニ關係コナリ、

昭和 年 月 日

日本銀行

福井縣下ノ二行ハ大和田ハ其經營者

蓄銀行ニ類セルヲ福井ハ機業金融ニ

相当進出トテ石川縣下ノ銀行ト似タル

處アリ。

廿六石川縣下ノ銀行ト福井銀行トヲ

昭和 年 月 日

併せし新銀行ヲ設立、大和田ハ其ノ

望ム處ニ從ヒ同一系統、大和田貯蓄

ニ合併セシムルヲ可トス、或ハ新銀行

ニ統合セシムルモ可ナルベシ。

本案ニヨルトキハ比較的摩擦モ甚ク

昭和 年 月 日

日本銀行

先少の世難ト思惟セラル、と處ナリ。

右案ニヨル新銀行、主要勘定

(十六年四月末勘定ニヨル)

繰込金 預金 貸出 証券 店舗敷

富山縣新卒
毛ノ

二九三〇九 三三六六三 一九五二七 一七〇七七 二二六

石川縣下銀行
福井銀行ト併
セズ毛ノ

九三九九 二三八七四 八七八六九 一五二八三四 一八〇

石川縣下銀行ト
福井大和田両行
ト併セズ毛ノ

一一九六七 二八二六〇 九五九九八 一八五八四七 二〇七

昭和 年 月 日



昭和十六年三月二十六日

金澤支店

北陸三縣下普通銀行ノ整理合同ト其ノ效果ニ就テ

営店管内タル富山、石川、福井ノ三縣下所在普通銀行（本店）ノ整理統合ハ
 茲一兩年來急速ナル進捗ヲ告ゲ、昭和十三年中八行、十四年中六行、十
 五年中二行合計十六行ヲ減シタレバ、昭和十二年末三十一行ノ多數ニ上
 リシモノ昨十五年末ニハ十五行ヲ算スルノミトナリ、減少率五一%ヲ示
 シ、同期間ニ於ケル全國普通銀行ノ減少率二四%ニ較ベ、其ノ成績至極
 良好ト稱シ得ベク而カモ右十五行中ニハ概ニ其ノ株式全部ヲ買收セラレ
 テ事實上ハ支店トナレルモノ四行ヲ含ミ、更ニ本年ニ入り二行ガ其ノ營
 業ヲ譲渡シ買收合併セラレタルヲ以テ、本年二月末現在ニ於テ觀ルトキ
 ハ昭和十二年末以降全國普通銀行ガ百二行ヲ減少シテ、其ノ率二七%ヲ



示シ居ルニ對シ三縣ニ於テハ二七二行七一%ト格段ノ進捗振ヲ見セ遂ニ九行ヲ存スルノミトナレリ。北隴地方人ハ粘リ強キ性格ノ反面、兎角保守的ニシテ、因循ノ傾アリトサヘ稱スル向アルニ拘ラズ、逸早く所謂關小銀行ノ一掃ヲ見テ銀行ノ整理合同ガ一應完了ヲ告ゲタルハ北隴財界ノ爲メ慶賀ニ堪ヘザル所ナルガ、今後ハ三縣夫々一行乃至二行更ニ進ンデハ三縣ヲ通ジテ二行位ノ基礎強大ニシテ内容堅實ナルモノニ再合同スルノ目標ニ向ツテ努力スルノ要アルベシ。

北隴三縣下普通銀行整理合同狀況

昭和三十二年十二月末	北隴三縣			全國		
	現在數	減少數	減少率	現在數	減少數	減少率
十五年	三行	一行	33%	五七行	九行	15.8%
十六年二月末	九行	二行	22%	二七五行	一〇二行	37%
(實質的) 行數	九	二	22	二七五	一〇二	37

三縣別普通銀行整理合同狀況

昭和三十二年十二月末	富山縣			石川縣			福井縣		
	現在數	減少數	減少率	現在數	減少數	減少率	現在數	減少數	減少率
十五年	一行	七行	66.7%	一行	一行	0%	四行	一行	25%
十六年二月末	四行	七行	75%	三行	一行	33.3%	三行	一行	33.3%
(實質的行動)									

斯クテ北陸三縣ノ普通銀行整理合同狀況ハ本年二月末迄ニ於テ石川縣最モ進捗ヲ示シ事變前ノ五分ノ一以下ノ三行ニ、富山縣之ニ亞ギ大体三分ノ一ノ四行ニ、福井縣ハ事變前既ニ四行ヲ存セルニ過ギザリシ爲メ、二分ノ一ノ二行ニ夫々減少セリ。而シテ整理合同ノ方法ハ昭和十三年九月石川縣前登地方ニ散在セシ七行ガ解散シテ能和銀行ヲ新立シタル外ハ十大行共悉ク買收合併セラレタルモノナルガ、内四行ハ其ノ株式全部ヲ合

併銀行が買収スルノ方法ヲ採レリ、今實質上現存スル銀行九行ノ同月末
現在主要勘定ヲ表示スレバ左ノ如シ、
(單位百萬圓)

		◎富山縣		◎石川縣		◎福井縣		◎和州		◎大和		◎小計		◎合計	
		十	高	富	中	加	加	能	小	大	小	大	小	大	小
		二	岡	山	越	能	能	和	和	和	和	和	和	和	和
資本金(内拂込)		二一	一一	四〇	二五	一〇	二〇	一三	一六	一七	一六	一五	一六	一五	六九
預金(内定期)		一七	七二	三二	六一	四一	六三	一九	二四	三八	三八	三八	三八	三八	五八
貸出(内手貸)		九〇	四七	八八	四三	二五	一九	一八	五二	三〇	三五	三六	三六	三六	二七
證券(内國債)		九七	三二	五九	二一	三三	一一	一一	六六	七三	五一	〇〇	〇〇	〇〇	二九
現金及預金	コールドン	一三	五三	二五	一五	二六	二六	九一	九一	六三	六三	九一	九一	九一	四一
備考															

安田銀行系
三和銀行系

右ノ如ク當地方銀行ノ整理合同ハ一應段落ヲ告ゲ、弱小銀行ノ一掃ヲ見タルモ、日尙淺ク殊ニ其ノ手續目下進行中ノモノモアリ、從ツテ合同ノ效果ハ未ダ充分ニハ現ハレザル所ナルガ、今其ノ經營上ニ及ボセル主要ナル效果ニ就テ檢スルニ大体左記ノ如キモノアリ。

一、經營率ノ低下

三縣別ニ經營率低下ノ程度ヲ表示スレバ左ノ如シ、

	富山縣	石川縣	福井縣
昭和十二年下期	二・〇五%	一・六九%	一・一一%
十五年下期	一・四二%	一・二九%	〇・八一%
比較減少	〇・六三%	〇・四〇%	〇・三二%

事變以來物價ノ昂騰、人件費ノ増嵩等甚シキモノアリタルニ不拘、經營率ハ各縣共概シテ每期低下ノ趨勢ヲ辿リ、右ノ如ク富山縣〇・六三%方石川縣〇・四〇%方、福井縣〇・三一%方夫々引下ヲ見タリ。右ハ素日

リ預金ノ累増ニモ基クモノナルガ、銀行ノ整理合同ガ相當顯著ニ經費ノ節減ニ資シタルモノ、如ク認めラル、而シテ富山縣所在銀行ノ經費率高キハ支店出張所ノ數過多ナルニ基クモノ、如ク、今後幾ヲ見テ店舗ノ整理モ必要ナルベシ。

試ニ十六年二月末現在三縣別銀行ノ有スル店舗數（出張所共）ヲ見レバ左ノ如シ、

富山縣	店舗數 二二六	（内出張所 六八）
石川縣	一一九	（内出張所 四三）
福井縣	八九	（内出張所 四三）

ニ収益率ノ昂上
三縣別ニ拂込資本金ニ對スル經常収益率ヲ觀ルニ

富山縣	昭和十二年下期	九.〇九%
石川縣	昭和十二年下期	九.八四%
福井縣	昭和十二年下期	一五.〇一%
富山縣	十五年下期	一一.七六%
石川縣	十五年下期	一七.二六%
福井縣	十五年下期	二三.一一%
比較増加		二.六七
		七.四二
		八.一〇

右ノ如ク經常收益率ノ昂上ハ福井縣最モ多ク八・一〇%、石川縣之ニ亞
 ギ七・四二%、富山縣最モ少ク二・六七%ヲ示セリ、且ハ預金利率平準
 化ノ促進、預金増ニ依ル運用資源ノ増大ニ資フ所モ大ナルガ、銀行ノ整
 理合同ガ進歩スルニ伴ヒ、從來激甚ナリシ預金ノ爭奪、貸出競争ノ弊風
 ガ漸次矯正セラレ、一方ニ於テ高歩預金ガ整理セラレ、他方ニ於テ不當
 ナル低利貸出ガ減ミ彼此相俟ツテ經費率ノ低下、收益率ノ昂上ヲ齎セル
 ハ言ヲ要セザル所ナリ。而シテ富山縣所在銀行ノ經常收益率ガ昂上ノ程
 度最モ低位ナルハ前述經費率ノ高キコト、又ノ如ク拂込資本金ニ比シ預金
 ノ多カラザルコトニ因ルモノナリ。

拂込資本金對預金比率

富山縣	一對一・五
石川縣	一對三〇・七
福井縣	一對二七・六

今就ミニ富山石川兩縣ニ於テ夫々縣内所在四行ヲ併合セシ十二加能合同ノ二行ニ付其ノ収益率、預金コスト、貸出平均利率及證券平均利率ノ推移ヲ觀ルニ、

十二銀行

昭和十二年下期 十五年下期 比較増減	經常収益率		預金コスト		貸出平均利率		證券平均利率	
	計	平均利率	計	平均利率	計	平均利率	計	平均利率
(増)	一一・〇〇	二・八八	(減)	一・七五	(増)	五・三六	(増)	四・〇五
(増)	一二・五三	二・七〇	(減)	一・五一	(増)	五・〇三	(増)	三・六六
(増)	一・五三	〇・一八	(減)	〇・四四	(増)	〇・三三	(増)	〇・三九

加能合同銀行

昭和十二年下期 十五年下期 比較増減	經常収益率		預金コスト		貸出平均利率		證券平均利率	
	計	平均利率	計	平均利率	計	平均利率	計	平均利率
(増)	一〇・七七	二・九四	(減)	一・五〇	(増)	五・九〇	(増)	四・〇九
(増)	一八・三五	二・六六	(減)	一・〇八	(増)	五・六三	(増)	三・六六
(増)	七・五八	〇・二八	(減)	〇・二三	(増)	〇・二七	(増)	〇・四五

經常收益率ハ貸出平均利率及證券平均利率ガ相當顯著ナル低下ヲ示セルニ不拘、十二ハ一・五三方、加能合同ハ七・五八多方何レモ昂上セルガ、右ハ預金利率ノ引下（富山縣十三年八月、石川縣十四年四月夫々實施）ニ因ル其ノ平均利率ノ低下モ、然ルコトナガラ、多數弱小銀行ノ併合ニ依リ、高歩預金ノ整理、經營ノ合理化ニ伴ヒ右表ニ明カナルガ如ク經費率ノ低下ニ基ク所モ尠ナカラザルモノ、如シ。

三、經營振ノ改善ト内容ノ堅實

從來管内ハ群小銀行相對立シ、殊ニ富山、石川兩縣所在本店銀行ニ於テハ預金ノ爭奪、貸出ノ競爭甚ダシク自然預金利率ノ昂騰ト貸出利率ノ低下トヲ招來シ、其ノ結果銀行ノ經營振ハ手張り過ギ恆常的ニ多額ノ借用金（マネーヲ含ム）ヲ擁スル情態ニテ戰時下ノ經濟界ガ兎角變轉ノ多カルベキニ照シ斯ノ如ク銀行經營ニ彈力性乏シキハ產業界ノ異變ニ對處シ、

當地方財界ノ平穩ナル推移ヲ期スル上ニ於テ甚ダ憂慮セラレタルヲ以テ、
當店ニ於テハ昭和十四年下期以來協定預金利率ヲ勵行セシムルハ勿論、
先ヅ以テ有名無實ニ陥リ居リタル金澤組合銀行ノ貸出協定利率ヲ改變セ
シムルト共ニ三縣下各組合銀行ヲシテ夫々實情ニ適應スル貸出利率ヲ協
定セシメテ、高歩預金ノ吸集、貸出ノ競争ヲ極力防止シタル關係モアリ、
銀行ノ整理合同ガ進捗スルニ伴ヒ其ノ效果ハ一層顯著ニ現ハレ來リ、各
銀行共其ノ手許ハ漸次餘裕ヲ生ジ、多年ニ亘リ借用金ニテ貸出ヲ賄ヒ取
ハ證券ニ投資スルガ如キ鞘取ノ營利方針ヲ全ク一變シ、時局ノ好影響ヲ
蒙ルコト乏シク、毎月常ニ國庫金引上超過ノ當地方ニ於テ昨年末ハ取引
先普通銀行ハ當店ヨリノ融資皆無ナリシノミナラズ、四、五千萬圓ノ遊資
ヲ抱キ當店開設以來ノ新記録ヲ作り悠々越年スルコトヲ得タリ。
如斯銀行ノ整理合同ハ其ノ營業方針ヲ是正シ、内容ヲ堅實ナラシムルト

共ニ經營ニ著シク餘裕ヲ生ゼシメ、自然國債ノ消化モ至極良好ナル成績ヲ擧ゲタリ。

今近年ニ於ケル管内普通銀行手許狀況ノ變化ヲ表示スレバ次ノ如シ、

(單位百萬圓)

借入金	コイルマネー	コイルローン	預ケ金	手許狀況	現金
十六、二	二	一	二	(+) 二七	一八
一	一七	一	五	(-) 二二	一六
二	二一	一	六	(-) 一九	〇
一	一六	一	七	(-) 一一	一一
二	一七	一	四		
一〇	二一	一	五		
三	二一	一	四		
三	一一	一	一		
一	一六	一	一		
二	二	一	一		
二七	一七	一	四		
二五	二一	一	五		
一八	一六	一	一		
一	一	一	一		
一	一	一	一		
一	一	一	一		

四國債消化ノ狀況

管下普通銀行ノ預金及貸出ノ狀況ヲ全國普通銀行ノ夫レト比較スルニ、左記ノ如ク、事變以來昨年末迄ニ於テ管内銀行預金ノ伸力ハ北海道所在支店預金急増ノ關係モアリテ、全國普銀ヨリモ強ク、反之貸出ハ當地方ガ概シテ時局産業ニ惠マレザル爲自然銀行ハ當地方主要産業タル織物界ニ對スル放資ヲ一層競ヒ不知不識業者ノ思惑ヲ助長スルヲ懸念セラレ、之ガ抑制ノ急務ヲ感ジタルヲ以テ一昨年十二月以來毎月石川縣下各銀行ヨリ織物關係貸出先別殘高報告ヲ當店ニ徴シ其ノ集計ヲ關係銀行ニ内報シテ各行ノ貸焦リ抑制ニカメ、各行モ貸出ニ慎重ヲ期スルコト、ナリ、延ヒテ昨春來ニ於ケル斯界空前ノ不況ニモ蹉跌者ヲ出スコト無之、又銀行合同ノ進捗ニ伴ヒ貸出競争ノ弊風一段ト矯正セラレタル等彼此相俟ツテ其ノ増勢ハ遙カニ全國ノ夫レニ及バズ、即チ當地方ニ於テハ預金一

五多、貸出四九多ヲ各増加セルニ對シ全國ニ在リテハ預金一〇八多、貸出八八多ノ増嵩ヲ示シ居レリ。

預金増加狀況

(單位百萬圓)

昭和十二年六月末	北陸三縣			全國		
	預金殘高	増加額	増加率	預金殘高	増加額	増加率
十五年年十二月末	二八〇	三三二	%	一、七〇四	一三六八五	%
昭和十二年六月末	六〇二	一一五	%	二四三八九	一〇八	%

貸出増加狀況

(單位百萬圓)

昭和十二年六月末	北陸三縣			全國		
	貸出殘高	増加額	増加率	貸出殘高	増加額	増加率
十五年年十二月末	二〇一	九九	%	七二〇八	六三四五	%
昭和十二年六月末	三〇〇	四九	%	一三五五三	・八八	%

斯クテ管内普通銀行ハ預金増加額三二二百萬圓中其ノ四五多一四五百萬

國ヲ證券投資ニ振向ケ、内國債ハ九一百萬圓ニシテ預金増加額ノ二八%
 ニ當リ、預金殘高ニ對スル國債保有率二九%ヲ示シ全國普通銀行ノ二四
 %ヲ遙カニ上廻リ好成績ヲ收メタリ。而カモ管内普通銀行中ニハ從來多
 額ノコールマニラ取入レテ國債等ニ投資セシ向アリテ、マニラノ返済
 ニ増加預金ヲ振向ケタル事情アリシモ、各銀行ノ手許前流ノ如ク寛和ヲ
 告ゲ、多額ノ遊資ヲ生ズルニ至リタルヲ以テ、預金ノ増勢ニシテ著シク
 停頓セザル限り今後ハ國債消化一層促進セラレ國債保有率ノ昂上モ相當
 顯著ナルモノアルベシト期待セララル。

有價證券及國債ノ増加狀況

(單位百萬圓)

北 陸 三 縣		全 國	
預金 増加額	國債 増加額	預金 増加額	國債 増加額
三二二一四五	四五	二八一二六八五	三八三四四〇
同割合	九一	同割合	同割合
三二二一四五	四五	二八一二六八五	三八三四四〇
同割合	九一	同割合	同割合
三二二一四五	四五	二八一二六八五	三八三四四〇
同割合	九一	同割合	同割合

昭和十二年
 十二月末迄
 昭和十一年
 十二月末迄

國債保有率ノ狀況

(單位百萬圓)

	北 陸 三 縣				全 國			
	預金殘高	國債在高	同保有率		預金殘高	國債在高	同保有率	
昭和十二年末	三〇八	八七	二八・二%	一三、三五二	二、四九九	二〇・二%		
十三年末	三六四	一一二	三〇・七%	一五、〇七二	三、六三四	二四・一%		
十四年末	四八〇	一三六	二八・三%	一九、七九三	四、六一八	二三・三%		
十五年末	六〇二	一七八	二九・五%	二四、三八九	五、九五六	二四・四%		

又

秋

日本銀行

昭和十六年五月二十七日

考査部長

總裁

副總裁

理事

大藏省銀行局長 宮山 石川、福井三

孫所 在銀行就中 十二、宮山、高島中越

(以上宮山知) 加能今日、加州、徳和 (石川知)

昭和 年 月 日

福井、大和、福井、諸行の合併上

本店を金澤市に置、新銀行設立の案

二付本行の意向照會ありし

本件に付、各銀行首魁者、動向如何

先づ向敷上、おれ、大花者、内証に依り

且つ同敷視、十二銀行、中田、寧

昭和 年 月 日

日本銀行の支店を設けるに由るべきの事、莫くは

之を存すに存するに力十分考慮を要するし

後二共、且向是ナレトスレハ(二)本銀行、如キ合

併カ地方経済ノ実状ニ適意スルヤ否ヤ、且

力之ニ付テ、障物、依ニ交通、途地、人情

ノ考慮等若干、且テ除イテ、格別支障

昭和 年 月 日

ナキモト思考ス 茲尙且之を念セラルコト

(3) 新銀行設立ノ曉果シテ所期ノ目的ヲ

達スル様運営可決ナリヤ否ヤノ点ニ一の

有之例ハ其ノ店舗ノ如ク四百三十余ヲ

兼ヘ役リニ重複スルモノ全部ヲ整理スルモ

尚三万店近ク全五銀行ニ殆メト其ノ比ヲ見

昭和 年 月 日

ス統制ノ容易ナラザルヲ思ハシム、加フルニ預

金額六億四余ニ上ル大銀行ノ形態ヲ備フルニ

至ルニ一孝ニ集束セラルルニ、又ケ首魁有ハ免ニ

自トシテ、其他ノ経営幹部ニ果シテ人ヲ得

可キカ、且ツ各行夫々傳統ヲ有シ其ノ経

営方針亦著シク異ナリ而カモ各行共夫々

有力ナル地方銀行ナル等ニ鑑ミル時右合同
案ハ其ノ事實ニ於テ何等及対スベキ理由
ナキノミナラス又斯ノ如キ方法ニ依ルコトガ各行
夫々ノ合同及対理由ヲ失ハレメ之ヲ容易ナ
ラシムル所以タルコトヲ思フスルモ尚慎重穩
討スルノ要アリ、現状ヨリスレハ寧ろ其處ニ

日本銀行

達スル道程トシテ比較的事務ヲ異ニスル

富山縣ハ別個ニ取扱ヒ先ツ高岡ト中越ヲ

合同セシメ出来レハ更ニ之ト十二トヲ合同セシム

ルコトニシ一石川福井兩縣ハ地理的經濟的

ニ近似シ且ツ有力ナル銀行ニ欠クルヲ以テ加州

ノ交通ニモ考慮シテ其ノ所在銀行ヲ一行ニ

統合スルユトの思ト被存唯ノ大和田ハ之ニ

参加スルカ若クハ其ノ首脳者ノ希望スルカ

如ク大和田貯蓄ト合同シテ貯蓄銀行トナ

ルコトモ同行ノ業態ヨリシテ差支ナレト致

ス次カニ有之候

要スルニ本件ハ本質上ノ問題ヨリモ実

昭和 年 月 日

日本銀行

際上ノ效果ニ考慮ヲ拂フ要アリトナス

關係上断定ヲ保留スルヲ適當トスルモ

一應右漸進方針ヲ以テ可然ト回

答方一取計可然哉 調書 相添

伺候也

昭和 年 月 日

控

シ

秘

日本銀行

昭和十六年五月廿九日

日本銀行 考査部長

濱田 課長 殿

先般貴社談有之候富山、石川、福井三名所在銀
行合同案ニ對スル本行、意向主役ト協議、結
果大体左ノ如クニ有之而了承奉願候

本件ニ付テハ

1) 各行首腦者、動向如何

色々見地ヨリ賛意ヲ表スルモノ可有之。

昭和 年 月 日

其ノ真意有テハ存スベキカ充分檢討ノ要アルコト

(2) 假ニ右ノ真問題ナレトスルバ本業ノ如キ合同カ地

方經濟ノ実情ニ適スベキモノナリヤ否ヤニ付

考察スルニ交通關係人情ノ相違等若干ノ真

除キテハ格別支障ナキモノト思考サル

(3) 結局最モ急念セラルコトハ新銀行設立ノ曉果

シテ所期ノ目的ヲ達スル様運営可能ナリヤ否ヤ

ノ真ニアリ例ヘバ

(1) 其ノ店舗数ノ如キ四百三十餘ヲ算フルニ至リ

昭和 年 月 日

其ノ内を整理スル店舗ノ整理スルニ者三百ニ近カルベク
之ガ統制容易ナラザルコト

ハ預金額六億ニ上ル大銀行ノ形態ヲ平スニ至役
陣ハ鬼ニ角トシテ其他ノ幹部ノ人ヲ得可キカ
急念ニセラント

ハ各リトモ地方有力銀行ニシテ夫々傳統ヲ有シ且ツ
其ノ経営方針ニ著シク異ナルニアリ弱小銀
行ノ合同ト趣リ異ニスルコト

(4) 要スルニ本合同果ニ付テハ前記ノ如ク本質ニ於テ
異論ノ事由ナク如斯方法ニ依ルコトニ夫々ノ互討

口實ヲ使ハシメ合同ヲ容易ナラシムルモノナルカ一舉
ニ決セス現状ヨリスレバ寧ロ其處ニ達スル道程

トシテ

(1) 比較的事務ヲ異ニスル富山縣ハ別個ニ扱ヒ先
ヅ高尾ト中越ヲ合同セシメ出來レバニハニ
ヲ合同セシムルコト

(4) 石川、福井兩縣ハ地理的・經濟的・近似ニ且ツ
特ニ有カナル節ハニ包クルヲ以テ加州ノ處理
ニ考慮シテ其ノ所在節ハソ一リニ統合スルコト
大和田ハ之ニ參加スルカ又ハ大和田貯蓄ト合

昭和 年 月 日

日本銀行

同レノ貯蓄部ヲトナスコト（同ノ首腦者、於レ希
望スル由）

右程ノ漸進方針ヲ報レ方適當ナル様考フル
次第ニ候

昭和 年 月 日

4

外

日本銀行

昭和十六年九月二日

考査部長

人重 澤支店長宛 電信業

至急 親展

ヘコタ フロヲ イイキ ネロム サヌム シヤメ
本電 支店長以外 譯セサルコトニ 願フ

ヤムトワ。エシ マエネ。フサム。ワユヌ ヤムト。ナク。
貴管内ノ銀行合併ニ関スル 貴見ニ付

レヲソ。モサス。ラモナ。ハヨナ。カフヨ。チフツ。
テハ 昨年十月 時報 告ニ 接シタル 處

昭和 年 月 日

タテテ、
~~トホサ~~ ^{ニチサ}、
メヒツ、
ワエエトサク、
フクカトツ

其ノ後、
高田中社ノ
関係等事情ノ
変

イ、
コソユカフ、
レラツ、
ナレキルヨア、
コエチ、
ヨチラ、
ヌラケ、
化ヲ生ジタルニ
付テハ、
現下ノ
情態ニ
於テ

クニヌ、
ナクル、
ルチツ、
アサス、
カサエ、
ホナマ、
エチモ、
サネチ、
ノウヨ、
三縣ニ
一旦リ
目取モ
ム女当ニ
シテ
實現性
アル

フサム、
ワユヌ、
ヤムト、
ナルク、
フレエ、
ヌスカ、
フワヨ、
ノウヘ、
合併ニ
関スル
貴見
至急
申下
ニ
アリ
度

ケラギ、
サホイ、
タクコ、

命ニ
依リ
申
治
候

昭和 年 月 日

ツリラ、スツハ、
シチサ、
メヒツ、
トヨカ、ムツラ、

尚大藏者ハ高岡ト申越トノ合同ハ

ウワヌ、
トヨカ、
ワモア、
ムシフ、
ケテエ、
アエ、
タクコ、

困難ナリトノ考ニ有之右申添候

又ナナ、
ヘヤシ、
スツハ、
ヘマリ、
キエタ、
チロ、
チルン、

追テ本件大藏者本行共ニ持ニ取急

又ノシ、
タクコ、
ホラテ、
又スツ、
レヤナ、

キタリ候ニ付 申合ミ願フ。

昭和 年 月 日

5

日本銀行

昭和十六年九月八日

總裁



考查部長



副總裁



理事



本行全澤支店管内、銀行合同ニ付テハ

昨年十一月附支店長意見承知済、處

其後ニ於ケル高岡、中越兩行關係

其他事情、變化ヲ考慮ニ入レ、又

昭和 年 月 日

日本銀行

高岡銀行ノミヲ石川縣所在本店銀行

ト合同ヤシムル一ノ場合ニ想定シ管内

三縣ニ涉リ最モ妥當ニシテ實現性アル

銀行合同ニ関シ重ネテ意見ヲ徴シタル

處別紙ノ通り回答有之候向供

高野候

昭和 年 月 日

日本銀行

追テ、右ニ目下ノ情勢ニテハ大体妥當

ナル見解ト被存候ニ付、右趣可然

大差有當否、尚参考ニ供スルコトニ

取計可申候

秘

昭和十六年九月六日

金澤支店長

日本銀行金澤支店

考查部長殿

現下ノ情態ニ於テ管內三縣ニ涉リ最モ其高
ニシテ實現性ニ銀行合併ニ由ルニ果シテ陳述
方電令ノ次第拜承、管內普通銀行ニ由ル
不取敢別紙ノ通り其回答申上候也

日本銀行金澤支店

一管内三県下所在弱小銀行ノ整理合同
ハ既ニ本春完了ヲ告ゲテ（本年三月二十六
日附調査報告ヲ北陸三県下普通銀行
ノ整理合同ト其ノ效果ニ就テ参考照）
地方銀行トシテハ何レモ相當有力ナルモ
ノ又ハシンパケート系銀行ノミト相成
申候處素ヨリ更ニ一層基礎強化ニシテ
内容堅實ナルモノニ再合同スルノ目標ニ
向テ引續キ不斷ノ注意ハ其ノ居候得共
今後合同ノ要ハ當地方金融界及産業
界ノ甚大早急ニ實現セシムルコトヨリモ

日本銀行金澤支店

寧口主トレテ行員不足ノ緩如策乃至
今後ニ於ケル經營難ノ濃化對策等
ニ在ル次第ナレバ此際強ヒテ之ヲ促進ス
ル程ノコト無之様存在候 而シテ今後
合併ヲ進行スルニ當リテハ專ラ代表
者カ銀行ノ公共性ヲ充分認識シ、眞
ニ地方産業指導者タル資格ヲ有スル
銀行ヲ中心トシ且出來得ル限リ銀行間ノ
権衡ヲ保持セシメ以テ當地方金融界並産
業界ノ健全ナル發展ヲ計リ度考ニテ合併ノ
可否、合同後ニ於ケル重役行員ノ融和等ヲ

昭和 年 月 日

日本銀行金澤支店

竊ト見極メタル上ニテ勸奨シ一度手ヲ出シタル
上ハ途中ニテ方針ヲ變更スルガ如キコト無之様
致度慎重ニ諮リ進ムキモノト存候

二福井縣

福井銀行

大和田銀行

大和田銀行ハ其ノ内容普銀トシテハ稀有ノ堅實
味ヲ有スルモ何分地方産業ニ對スル關係ニ極
稀薄ニシテ既報ノ如ク社長老齡、專務不健
康ナルハ營業振興極的、之ガ變化ヲ望ミ兼候
上其ノ主要地盤タル敦賀ニ於テハ肥料海産物

昭和 年 月 日

日本銀行金澤支店

高が閑散休商状態ニテ假令積極的方針ヲ
採ラントスルモ今後与分實行難ク態、然レハ連
福井銀行トノ合同ハ依然實現性乏敷、從テ
同系大和田野蓄銀行ニ併合改組セシムルヲニセ
ト思ハレ、近來行員不足ヲ訴ヘ居ル狀況ニテモアリ
之ガ實現ハ格別ノ摩擦モ無之乎ト被認候
福井銀行ハ地許産業就中機業ノ健全ナル
發展ヲ目標ニ他縣ノ銀行殊ニ十二ノ管業概
リニ悩マサレソ、多年孤軍奮闘、市橋頭取ハ
相當私財ヲモ投シテ之ガ首成ニ努メタルニ
有之、今日回頭取ハ県産業界ノ大恩人トシテ

昭和 年 月 日

日本銀行金澤支店

絶大ナル信頼ト尊敬トヲ受ケ居候實状ニ有之
斯ル事情ヲ考量スルトキ北陸方面ニ於テ今後
銀行ノ整理合同ヲ進ムルトセハ先ヅ本縣ヨリ手
ヲ染ムベキデアリ而カモ一縣一行トスルヲモ富ノ孫
御存候

三石川縣

加能合同銀行

加州銀行

能和銀行

富山縣一本店ヲ有スル十六高岡、中越、富山ノ
四行ハ金澤、小松、七尾ノ三市ヲ始ト石川縣下

昭和 年 月 日

日本銀行金澤支店

樞要ノ地ニ合計三十ノ支店ヲ、又福井縣ニ本店
ヲ有シ、福井、大知田兩行ハ金澤、大聖寺ニ合計
四ノ支店ヲ夫、有シ、又之富縣所在右三本店銀
行ハ富山、福井兩縣ニ全然支店ヲ有セズ、縣以
ノミヲ地盤トスルコト、ヲ兩縣ノ銀行ヨリ挾撃セラレ
居ル狀態ニ有之、殊ニ富山縣銀行ノ壓迫ヲ蒙
リ、業況ノ伸展ハ不斯阻害サレ、就中従来
十二高田兩行ノ營業振リハ管利、自行本位ノ
傾向濃厚ニテ、協調性ニ乏シク、本店銀行ハ免
角尻、枝ヒヤ跡始末ヲ引受ケルノ苦汁ヲ度々
嘗ト候、返ナルガ高田銀行ハ現頭取高廣治平

昭和 年 月 日

日本銀行金澤支店

氏が就任以来本店銀行トノ協調ヲ好ク保持シテ
金融ノ疎通ニ貢献スルニ至リ候處十二銀行ノ
遣口ハ今尚依然自行本位ノ打算的傾向強ク
口ニ協調ヲ唱ヘテカテ陰ニ廻リテ逸早く他行ヲ
出シ抜クニト往々有之候様ノ次第ニテ石川・富山
ノ兩縣ハ福井縣ト全ク事情ヲ異ニスレ兩縣ニシテ
現在スル本店銀行ヲ夫レ合併シテ一縣一行トスル
コトハ北陸金融界ノ平和ヲ維持シ得サルノ懸念
アルノミナラズ産業ノ健全ナル發達ヲ計ル者トモ
面白カラズト被存茲ニ慎重ナル考慮ヲ研フノ
事アリテ早急ノ合併ハ今分ノ處出來兼候様

昭和 年 月 日

日本銀行金澤支店

認候

右ノ如キ實情ヲ考慮シ第一項ニ述バル方針ニ
從ヒ、并當ト認トラル、合併ハ高田、加能合同ヲ
中心トシ中越、加州、能和ノ五行ヲ一丸トスルニ
在ルカ如クニ被存候 但三和銀行ハ子銀行タル
加州本店跡ニ支店開設ヲ許シテ莫レルナラ加州
ヲ予合併ニ參加セシメ又能和モ右ノ如キ大合同
ニ異存無之様觀取セラレ申候

四富山縣 十二銀行

高田銀行

昭和 年 月 日

日本銀行金澤支店

中越銀行

富山銀行

十二頭取中田清兵衛氏ハ茲一兩年餘程協組
 的ニナリタル様社存借得共同行ノ實際取引ニ
 現ハル處ハ大銀行タルノ様度ニ至ル尙依然
 自行本位ノ打算的邊ハ多ク通ニテ高田頭
 取高廣次平氏トハ合ハズ而者午ヲ握ルノ如キ
 無之様社存借ノミナラズ福井頭取市橋保治郎
 加能合同頭取米合半平ノ両氏モ中田頭取ニ
 對スル反感ハ豫想外ニ深刻ニテ十二ニ之レ以上
 他ノ銀行ヲ合同セシムルコトヲ極度ニ嫌惡致居

昭和 年 月 日

日本銀行金澤支店

市橋頭取モ高岡、加能合同ヲ中心トスル前項ノ
合同案ハ寧ロ口實成ニテ希望スルモ十二月中
トスル合同ハ絶對又對ノ意ヲ漏シ申候又差
業界ニ於テモ一部ノ支持スル外中田頭取ニ
對スル反感ハ相當濃厚ナルモ有之候實情
ナレバ前記高岡、加能合同ヲ中心トスル上
行ノ合併實現スル場合ニハ富山銀行本支ニ安田
支店設置ヲ許シ、同行ノ富山、石川兩縣所在
支店ヲ十二ノ讓渡スル程度ガ安當ノ豫想存候
中越ハ今春大藏省検査官一縣一行ニ合同
ヲ勸奨セラル、場合ニ依然參加可致旨ノ一札

昭和 年 月 日

日本銀行金澤支店

ヲ差出居候趣ナルカ右ハ實現不可能ヲ前提ト
セシモノ、如ク眞意ハ依然單獨營業ニ在ル様
被認候 尚先般富山縣知事ヨリ同行岡本
常務ニ對シテ大藏省ニ本居ヲ金澤ニ置キ
高岡加能合同中致ヲ中心トスル銀行合同案
アル趣聞キ込ミタルガ、富山縣下ニ三行位ハ必要
ナルヘク而カモ何レモ立派ニ銀行ナレバ右ノ此キ案
ニ反對ナク左様ニ得置相成度旨申渡シ
レタル事情モ有之一層單獨營業ノ壯ニ見受
申候

以上

昭和 年 月 日



昭和十六年九月九日

大藏省

相田銀行局長 殿

岸銀行検査課長 殿

濱田普通銀行課長 殿

日本銀行考査部長

拜啓富山、石川、福井三縣下ノ銀行合同ニ關シ當行金澤支店長ヨリ別紙ノ
通り情勢報告有之候ニ付御參考迄供高寛候

敬具

日本銀行

昭和十六年九月八日

審査部長

金澤支店長殿

貴管内銀行合同ニ関スル貴見示ニ
拜承、右ニ直ニ重役へ回示、上其ノ高
大蔵省銀行局ニ送付参考ニ供スルコトニ
取計申上向承知置被下取ル

敬具

大正 年 月 日

6

必

日本銀行

昭和十六年十月三十一日

審査部長

總裁

副總裁 澤島

理事

青田 山崎

北陸三名新在本店銀行合同ニ関スル件

本月上旬北陸銀行大會ニ出席シタル際濱田

昭和 年 月 日

大藏省善報課長。福井(六日)、石川(八日)、富

山(九日)、各名廳。又、帛下本店銀行、富岡

者、各個に招致し、帛ヨリ經濟部長、本行

ヨリ金澤支店次長立會、各名共、又、帛内所

在本店銀行、一州に統合スル方針に付、懇

談、席上各銀行當事者、答へたる意見

昭和 年 月 日

概要左ノ如シ。

(金澤支店次長ヨリ電話・テ聴取)

一、福井県

小大和田銀行頭取ハ自リノ貯蓄銀行ニ改組シ

同系大和田貯蓄ト合同スルコト・異論ナシ。

四) 従ツテ普通銀行トシテハ自然福井銀行一行

昭和 年 月 日

トナリ、本名ニ付テハ、問題ナク、市橋福井頭取ニ

會論異議ナシ。

ニ石川名

(1) 加州銀行、頭取丸川出席セス、為務若松一美

出席、上大佐名、兩方針ヲ拝聽、上

頭取ニ付ル旨、應答程迄ニ止ム

昭和 年 月 日

心加能合同頭取米谷、石川縣本店銀行、毎條

仲、一ツトナスコトニ強ク反對ス、何故ナラバ石川縣

、福井縣及富山縣、銀行ニ壓迫セラレ也リ、

單ニ現在、石川縣本店銀行ヲ合併シタルニテハ

到底存立ノ見込立タズ、故ニ、石川縣、本

店銀行ト富山縣、高島銀行並ニ中越銀行ヲ

昭和 年 月 日

日本銀行

加へ合同スルカ、若シクハ (2) 強イテ石川縣下本

店部ヲ一ツ・合同スルトナクハセニ他縣部

ノ各支店ヲ讓渡セシムルヲ要スルコトヲ主張シ

タリ。

右(三) 對シ 浜田課長、北陸三縣ハ夫々縣下部

ヲ一ツニ合同セシムルコト、大體者部リ向ノ方針

昭和 年 月 日

ヲ定メタルヲ以テ右様ノコトハ出来難イ旨説明
シタリ。

（ハ）能和銀行頭取泊富一ハ自リトシテハ大蔵省

ノ方針トアラハ名下一行ニ異論ナキ旨答へ

タリ

石川名譽談會席上金澤貯蓄ノ頭取トシテ

昭和 年 月 日

日本銀行

出席シタル中田・対シ濱田課長、北陸三糸。

於ケル貯蓄銀行及信託會社、付テ、貯蓄、富

山、石川両糸下ニ一ツ、福井糸ト合セ二ツ、信

託ハ三糸一社トスル考ヘナルガ、實際何レモ之レ

ハ無色ノモノトナシキツ以テ、中田、貯蓄信託

員俸ヨリ退カレ善迎銀行ノ経営、為念セラル、

昭和 年 月 日

才多望シタリ。

三. 富山縣

小高君即前頭取高慶次平、富山地方ト高

君地方トハ土地ノ事情ニ異ナルノミナラズ總

シテ中田ト自分ハ性格的ニ相反シ、兩方、

經營方針亦全然異ナレリ、從ツテ兩方合併、

昭和 年 月 日

日本銀行

上兩者調和シテ行クコトハ不可能ナリ。自今トシ

テハ寧ロ中越館行ト共ニ石川名ノ本店館行ト

合同スルヲ適當ト考フル旨ホヒタリ。此際

大倉名側ニシテ富山名カ一行トナリタル場合

中田ヲ頭取トシ、高橋ヲ副頭取トナスコトヲ

臭ハスト共ニ、且シテ富山、石川両名ノ貯蓄館行ヲ

昭和 年 月 日

合同シタル際迄方頭取ハ高度ヲ推スベキ

様子ヲ示シタルニ對シ、高度ハ自合トシテハ從來

貯蓄銀行ニ至リ是係ナク且ツ將來ニ至リ意

思ナキ旨ヲ答ヘタリ。

(四) 十二銀行頭取中田清兵衛ハ自合ハ並陸三

島一ツト爲スヲ理想トスルモ、ソレハ困難ナラバ

富山島下一行。異論ナキ旨答ヘタリ。

(一) 中越銀行ハ曩ニ島下一行ナラバ異論ナキ

旨一札ヲ大長者ニ入レアルヲ以テ異論異

議ヲ唱フル余地ナク賛意ヲ表セリ。

(二) 富山銀行頭取安田椿雄ハ本件ニ付テハ既ニ

保善社ト大長者ト話合済ナルヲ以テ申上ケル

昭和 年 月 日

コトナントセリ、此ノ意味ハ同行本店ノ安田銀

行ノ支店トナスト共ニ各々支店ハ十二銀行ニ讓

ハスルコトナリ。

(ホ右ニ付富山名廳側トシテハ富山各々ノ銀

行ノ一部ハ他各銀行ト合同シ吸收スルハ

コトニハ絶対互對、之レハ大抵者北陸地方

昭和 年 月 日

日本銀行

ニ付一帛一リトセラル、方針ニモ合致スルコト

ナリ、若シ三帛ト一リトスル場合、於テモ富山

帛ニ本店ヲ設置スル、非レバ反対ナルコトヲ

強ク主張シテリタリ。

而右各帛所在善通銀行ヲ更々一帛ニ合同

スル大意者ノ方針、付各銀行ハ本月末迄

昭和 年 月 日

日本銀行

書面より以下に文答中より尚スコトニナリ也レリ。

附記

全澤支店長
意見書
九月八日附
紙(報告)

本行全澤支店長トシニハ大抵者ノ方針・従ヒ

其ノ實現ニ努カスルヒ、何レ各リノ文答中

ヲ見タル上意見ヲ附シ報告致ス旨中

届候。

以上

昭和 年 月 日

昭和十六年十月二十三日

考査部

一万田尙登

金澤支店

淺岡次長殿

拜復先夜ハ遅ク電話申上失禮仕候以御蔭事情詳細判明早速重役ニ報告
致置候尙右ニ關スル御書面正ニ拜受仕候厚ク御禮申上候

敬具

7

金澤支店

昭和十六年十月二十一日

金澤支店

浅岡一

一萬田考査部長殿

寄呈

拜啓秋冷之候愈々御清適に被爲涉候段大慶至極に奉存候

濱田普通銀行課長と當地方銀行信託首腦者との各個面接會談要旨別紙の
通りに有之候尙右會談は六日福井縣、八日石川縣、九日富山縣の順序に
て夫々縣廳に於て行はれ、石川、富山兩縣分は小生も出席致候得共福井縣
分は傳聞に有之、多少事實と相違の點有之哉も圖り難く候に付き豫め御
諒承被下度候

敬具

110-2

一、濱田課長提示ノ合同案要旨

(1) 北陸三縣ノ普通銀行ハ行政區劃別ニ合同セシメ一縣一行トス。

但シ大和田ハ大和田貯蓄ヘ合体セシメ、又加州富山兩行ノ本店ニハ夫ト三和安田ノ支店設置ヲ認メ、其ノ支店ハ縣別ニ新銀行ニ讓渡セシム

三和安田ノ新銀行ヘノ資本參加ハ認メズ

(2) 貯蓄銀行ハ福井縣一行、石川富山兩縣ニ一行トシ此分ノ本店ハ金澤ニ置ク

(3) 信託ハ三縣一社トシ本店ハ金澤ニ置ク

以上ハ當局ニテ公式ニ決定セル方針ナリトシテ各當事者ニ明示セル處ナルガ、尙之ガ實行ニ當リ人事ニ就キ左ノ如キ腹案ヲ用意セル如ク受取りタリ

(其ノ一部ハ當事者ニモ仄シタル點アリ)

(1) 富山ノ新銀行ハ差當リ中田ヲ頭取、高廣ヲ副頭取トスルモ、中田ハ期限ヲ附シテ引退セシメ將來高廣ニ代ラシメ度キ考ヘナリ

(2) 新貯蓄、信託ニ就テハ從來ノ個人的色彩ヲ稀薄ナラシメ、中性的存在トシタタ、金澤ノ新貯蓄頭取ニハ高廣ヲ又新信託社長ニハ市橋ヲ豫定シ居レリ

右二項ハ高廣、市橋ヲ納得セシメ提案ノ實行ヲ容易ナラシムル様其面子ヲ考慮シタルモノト察セラレ、モ、資本關係ニ對スル處置等ニ就テハ具體的説明ナシ

ニ代表者答辯要旨

(1) 加 州 ——— 若 松

本日丸川ハ無據用件ノ爲メ來澤シ得ズ自分ハ御話ヲ承リテ報告スル丈ケノ委任ヲ受ケテ出席セルモノナレバ御話ノ趣ハ丸川ニ逐一報告シ追テ何分ノ御答申ヲ申上クベシ

(2) 加能合同 — 米 谷

元來石川縣ノ本店銀行ハ他縣ニ營業所ヲ有セズ縣内ノミニテ纏レルニ對シ、隣接富山、福井兩縣ノ本店銀行ハ兩面ヨリ本縣内ニ進出シ來リ常ニ狹擊ヲ受ケ居ルノ態勢ニアリテ從來共之ニ相當脅威ヲ感ジ居レルトコロ、是等ガ今回ノ一縣一行主義ニヨリ一層強力トナリテ今後其ノ矢面ニ立タサル、コト、ナレバ特ニ強力トナルヘキ富山縣新銀行ニ對シ石川縣新銀行ハ到底太刀打出來ズ、著シキ窮境ニ追込マル、コト、ナルベシ、コレデハ無益ノ競争ヲ廢止シ經營ノ合理化ヲ圖ラントスル統制ノ趣旨ニハ寧ロ反スルモノト謂ハザルベカラズ、サレバ假リニ一縣一行主義ヲ強行セラレントスルナレバ他縣銀行ノ本縣下支店ハ、二ノ主要都市ヲ除キ全部本縣新銀行ニ讓渡ヲ受クルコト、致シ度ク、他縣銀行ノ縣内支店整理ヲ伴ハザル一縣一行案ニ對シテハ絶對ニ反對セザルヲ得ズ。當地方ノ銀行合同方針トシテハ右ノ如キ單ナル今日ノ行政區劃ニ依ラズ富山縣ノ吳羽山ヲ境トシ其以西ニ本店ヲ有スル高岡、

中越兩行ヲ石川縣新銀行ニ包攝セシメラル、ナラバ舊幕時代同藩ナリシ關係モアリ氣質ノ相似ヨリ融合シ易キノミナラス、此ノ新銀行（加能合同、加州、能和、高岡、中越ヲ含ム）ハ吳羽山以東ノ新銀行（十二、富山）ニ對シヨク業容ノ均衡ヲ得テ何レガ他ヲ壓倒スルト云フコトモナク兩立シ得ベク、又兩行間ニ夫々各地盤ノ協定ヲ行ヒ相互ニ支店ノ交換ヲ爲サバ將來一層平和ヲ齎シ得ルコト、ナルベシトテ當局案ニ反對吳西兩行ノ包攝ヲ力説シタリ

(3) 能 和 泊

大藏省ノ方針ニ順應致スベシ、實行ニ當リテハ特ニ公平ナル處置ヲ望ム

(4) 金澤貯蓄
第三信託 中 田

貯蓄、信託ノ處置ハ大藏省ニ無條件一任致スベシ

(5) 石川貯蓄 木 下

金澤トノ合同ハ多年反對シ來レル處ナルモ、御提案ノ趣旨ヲ諒トシ大勢ニ順應致スベシ

(6) 高岡——高廣

十二ト當行トハ人的構成ヨリスル銀行ノ性格並ニ經營方針全然異リ到底相容レ難キモノアリト信ス、例ヘバ十二ノ重役陣ハ概ネ行員上リニテ固メ且ツ中田頭取獨裁ノ色彩濃キニ對シ、當行重役ハ主トシテ地方名望家ヲ集メ、合議ニヨリ極メテ圓滑ニ行務ノ運營ニ當リツ、アリ、兩者ノ氣風ハ全ク相違シ當行側ニ於テハ中田ニ對シ好感ヲ持テル者一人モナキヲ以テ合併ノ上重役間ノ圓滑ナル調和到底期待シ難シ、又當行ハ常ニ地方中小商工業者ノ面倒ヲヨク見テ遣ルト謂フコトヲ經營ノ根本方針トセルガ、十二ハ專ラ利益主義ノ經營ニ墮シ我々ノ首肯シ難キ點多々存スルヲ以テ我々トシテ中田ヲ頭取トシテ其ノ統制下ニ協調シ得ル見込ハ全然無シト謂ハザルヲ得ズ、加之產業方面ニ於テモ當行ガ十二ニ合併セラレ從來ノ十二ノ方針ヲ以テ經營セラル、モノトセバ恐ラク全部反對ヲ表スルモノト考ヘラル、トコロニシテ、カ、ル合同ハ地方產業ノ發展ノ爲メニ如何等裨益スルトコロ無カルベシ、吳西地

方ハ土地ノ氣風ヨリスルモ富山ヨリ寧ロ石川ニ近キモノナレバ當行ハ
中越ト共ニ石川縣新銀行ニ合流スルコトヲ希望シカクスレバ人事ノ圓
滑ナル調和モ期待シ得ルモノト信ズ
尙自分ハ貯蓄トハ從來何等關係ヲ有セズ將來トモ之ガ經營ヲ引受クル
意思毛頭ナシ

(7) 十 二 ——— 中 田

一縣一行方針ニ就テハ無條件一任(重役ノ選任他縣支店ノ分離ヲ含ム)
ヲ表意シ、十二ノ孤立ニハ反對(富山ハ十二ニ吸收サル、モノトシテ)
尙濱田課長ヨリ「昨日貯蓄ノ方カラハ手ヲ引イテ貴方ハ普通銀行ヲオ
造リナサイト云フタガ、ソレニ別ニ意味ノアルモノト考ヘナイデ貴方
ハ無條件デ一任シマスネ」ト押シタルニ對シ「エ、」ト稍言葉ヲ濁シ
タリ

(8) 中 越 ——— 岡 本

既ニ一札差入レアル如ク一縣一行合流ニ異議ナシ

(9) 富 山 — 伊 藤

御方針ハ既ニ保全社ト御諒解済ナレバ格別申上グルコトナシ（大藏省
案ニ聽從ノモノト認ム）

(10) 富山合同貯蓄 — 金 尾

頭取ノ意思ヲ糺シ重役會ニモ計リタル上答申致スベシ

(11) 北 陸 信 託 — 荒 井

金澤ニテ七日別個ニ會談済ニテ富山ニ出席セズ

但シ個人トシテハ異存ナキ旨應答セル由秘刻聽取

(12) 福井、 福井信託 — 市 橋

信託ノ合併ニ對シ表面強ヒテ反對ハセザリシモ内心不腹ノ如シ

(13) 大 和 田

未 詳

(14)

森田貯蓄

—— 森田

大和田ノ傘下ニ入ルヲ肯セザリシ模様ナリ

追而本會談ニ於ケル正式答申ハ重役會ニモ計リタル上書面ニテ本月末迄
ニ到達スル様銀行局長宛提出スベキコトヲ夫レ申渡^{サレ}タリ

以上